

# い し ず え

全損保日勤外勤支部 東日本合同職場会ニュース 08 - 35

2008年 6月16日 (発行) 首都分会組対部

## 「巨艦も舵が少し変われば大きく動く」

### ミレアHD株主総会一週間総行動で舵を変えよう

6月9日10:30より、東京高等裁判所大法廷で、「東京海上日勤火災外勤社員制度廃止事件」の第7回口頭弁論が開かれました。私たちは原告だけでなく、継続雇用者や転進者の現状もふまえ「なぜ外勤でなければならないか」を明確に訴えたのに対し、会社は現実味に乏しいシミュレーションで不利益は無くなると訴えました。裁判が始まった頃から感じていたことですが、会社は本当にこの事件を解決する気があるのか、判決がどう出ようと、東京海上日勤火災のルール、常識で事を納めようとするのではないかと思っていました。

この日、裁判長より解決に向け、和解勧告が出され、双方共に了解し、次回7月1日に和解条件を示すことになりました。私たちが求めていることは、今まで通り、外勤社員として働きたい、それ以上でもそれ以下でもなく、東京地裁判決もそのことを認めたのです。それが和解の絶対条件です。

この間の外勤社員に対する経営の態度は許せるものではなく、司法の場で東京海上日勤火災経営を断罪し懺悔させたい気持ちは誰もが有ると思います。しかし、ここはそれをグッと胸に収め、外勤社員として東京海上日勤火災で働き続けること、そして全損保組合員として東京海上日勤火災経営を監視続け、間違いを正して行くことが私たちの役割です。

報告集会で、東京海上日勤火災をイージス艦、巨艦にたとえ、それを沈めることは出来なくても、舵を少し動かせば、巨艦の方向は大きく変わると学びました。巨艦、東京海上日勤火災の横暴、暴走を抑え、方向を正す為に、私たち全損保組合員が舵を動かさなければなりません。外勤社員として全損保組合員として、経営におかしいことはおかしいと言い続け、経営を倒すまでは行かなくとも、間違った方向性を正すことは出来ます。全損保の闘争の歴史がそれを証明しています。経営が言った07年6月末をすでに1年過ぎようとしても、外勤社員は居るのです。舵は確かに動いているのです。今が踏ん張り所です。